

1

みえけんりつ びじゅつかん 三重県立美術館について

この美術館は、1982年9月25日にできました。今、美術館には6000点以上の作品があります。ルノワールやモネやシャガールがフランスで描いた絵があります。またスペイン人のムリーリョ、ゴヤ、ダリ、ピカソが描いた絵もあります。そして江戸時代(1603年~1867年)から今までの三重県と関係がある作品などもあります。そして、2003年には彫刻家の柳原義達からたくさん作品をもらいました。そしてその作品のために、新しい部屋をつくりました。この美術館の作品は、3か月に1回ちがうものにかえています。

この美術館の活動は作品を紹介するだけではありません。美術を研究しています。そして、楽しく作品を見てもらうために、たくさんの人に教育を行っています。いろいろな場所から作品を借りて、日本や外国のいろいろな美術の紹介もしています。これまでにブラジルのサンパウロ美術館の作品や、フランス人の「ドガ」、三重県と関係がある「曾我蕭白」や「伊勢型紙」などを紹介しました。これからも調査と研究を続けます。そして世界のすばらしい美術や、三重県の美術を紹介します。

2

びじゅつかん じょうほう 美術館の情報

かいがんじかん 開館時間／9:30a.m.-5:00p.m.(入館は4:30 p.m.まで)
びじゅつかん やす 美術館の休み／月曜日(月曜日が祝日のときは、次の日が休み)、12月29日～1月3日

ひつよう 必必要な金(美術館のコレクションと柳原義達記念館)
かね 大人 310円<240円>
えん 学生 210円<160円>
えん 高校生以下 無料
かね 20人以上の団体は< >内のお金
くわくべつ 特別な展覧会は別のお金が必要です。

- 目が悪い人に必要な犬は美術館に入ることができます。
- 美術館の中では車のついた椅子を貸すことができます。お金は必要ありません。
- 展示室の中で写真を撮りたい時は、許可が必要です。展示室の受付へ来てください。写真を撮ることができる場合は、そのための腕章を貸します。カメラのフラッシュや三脚は使うことができません。展示室以外の場所は、写真を撮ることができます。

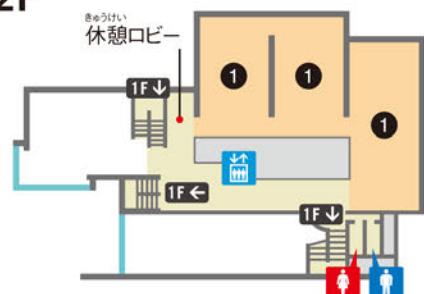
3

フロアプラン

B1F



2F



- WC [女性]
- WC [男性]
- ロッカー・ルーム
- エレベーター
- チケットカウンター
- インフォメーション

1F



- ① 常設展示室
- ② 企画展示室
- ③ 柳原義達記念館 A B
- ④ 美術情報室

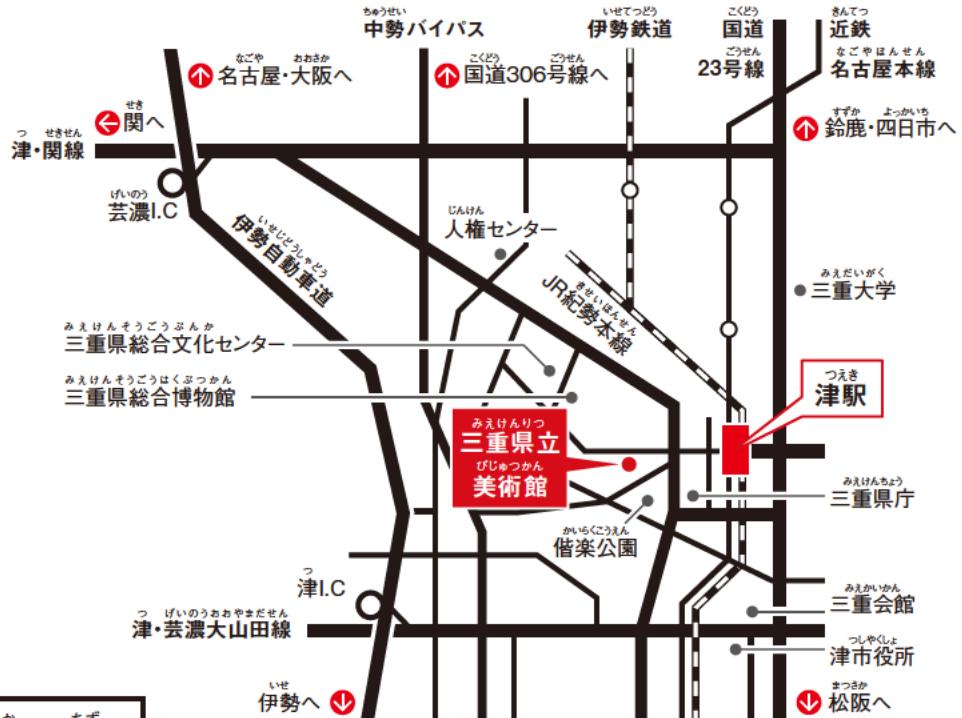
- ⑤ ギャラリー
- ⑥ ファミリールーム
- ⑦ ミュージアムショップ
- ⑧ 美術体験室

- ⑨ 講堂
- ⑩ レストラン
- ⑪ 身体障がい者用駐車場

4

アクセス

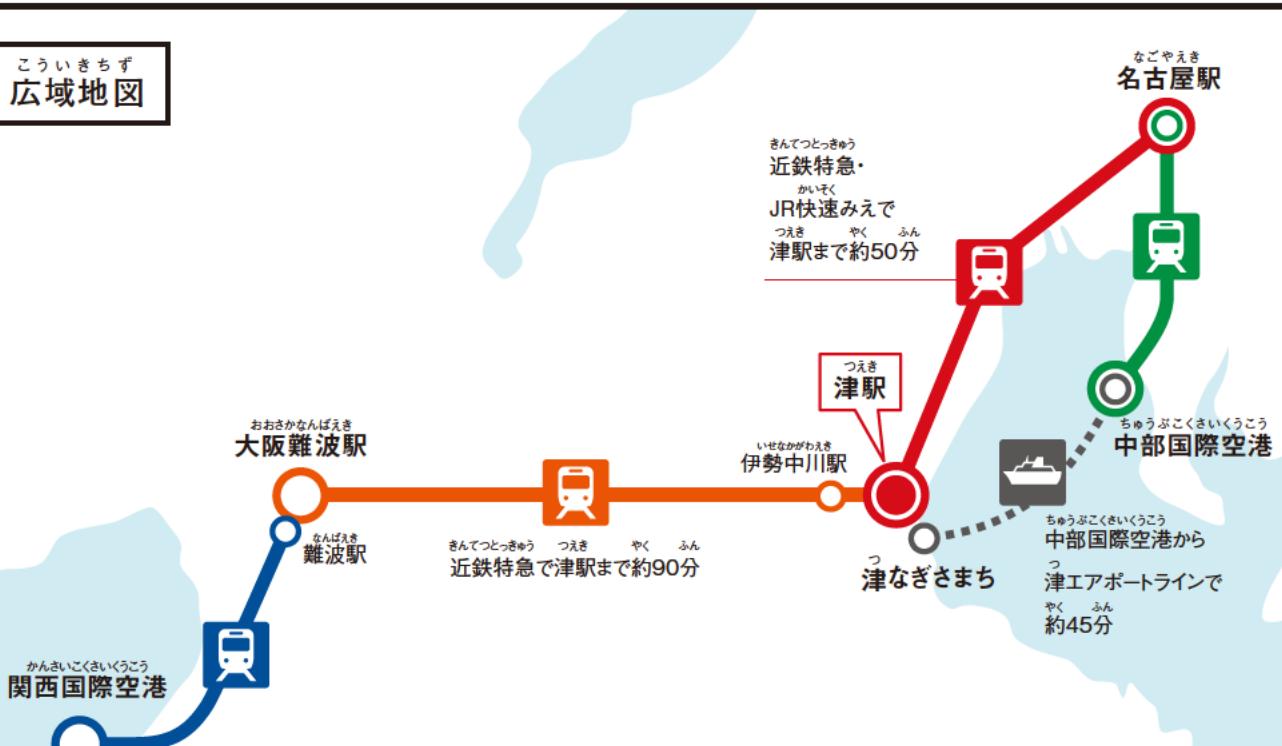
〒514-0007 三重県津市大谷町11 TEL. 059-227-2100
<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>



美術館に近い地図

美術館への行き方 津駅(近鉄・JR線)から西へ歩いて10分。または津駅西口1番のりばより三重交通バス「西団地巡回」や、「ハイタウン行き(東団地経由)」、「夢が丘団地行き(総合文化センター前経由)」、「総合文化センター行き」に乗って、「美術館前」で降りてください。2分ぐらいです。そこから歩いてください。1分ぐらいで美術館です。

広域地図



5

おもしおさくひん
主な所蔵作品

ムリーリョ、バルトロメ・エステバン(1617-1682)

《アレクサンドリアの聖カタリナ》

1645-1650年頃

これはムリーリョが描いた大きな絵です。ムリーリョはスペインのバロック時代の有名な画家です。ある日カタリナはローマ皇帝から結婚を申し込まれました。しかし、カタリナはキリストを深く信じていたため、それを断ってしまいました。そのため、カタリナが罰を受けるところを描いています。



曾我蕭白(1730-1781)

《竹林七賢図》制作年不詳

曾我蕭白は、江戸時代(1603年~1867年)に活躍した画家です。これは、今から1700年以上前、中国の山に住んでいた7人の賢い人たちを描いた絵です。この7人はすばらしいひとたちなので、昔から多くの画家が彼らの生活を描いてきました。しかし、曾我蕭白は多くの画家たちとは違いました。彼は7人の中の1人が、遊ぶのに疲れて、出でいくところを描きました。



ゴヤ・イ・ルシエンテス、フランシスコ・デ(1746-1828)

《アルベルト・フォラステールの肖像》

1804年頃

ゴヤは人をよく見て、すばらしい技術で絵を描きました。アルベルト・フォラステール(1737-1820)はスペインの兵隊です。スペインの首相だったゴドイは、絵を集めるのが好きでした。彼はこの絵と関係があったようです。

ルノワール、オーギュスト(1841-1919)

《青い服を着た若い女》1976年頃

この絵は、ルノワールが描きました。パリの人たちを描いた有名な《ムーランド・ラ・ギャレット》(オルセー美術館)と同じころの作品です。ルノワールは人がたくさんいるにぎやかなところや若い女性たちをしっかりと速く描くことができました。



モネ、クロード(1840-1926)

《橋から見たアルジャントウイユの泊地》1874年

モネは、1871年から7年の間、パリから近いアルジャントウイユに住んでいました。この絵は一回目の印象派展があった年にできました。モネは光をすばらしく描いています。

5

おもしおうさくひん
主な所蔵作品

橋本平八(1897-1935)

《猫A》1922年

橋本平八は三重県の伊勢で生まれました。木を使って人や動物のかたちを上手につくりました。この緊張した顔の猫は、私ですと橋本平八は言いました。



佐伯祐三(1898-1928)

《サンタンヌ教会》1928年

佐伯祐三はパリの景色をたくさん描きました。30歳のとき、パリで死にました。ヨーロッパで生まれた油絵に、東洋で生まれた墨絵の技術を取り入れ、ほかにはないすばらしい絵をつくりました



元永定正(1922-2011) 《赤と黄色》1966年

元永定正是三重県の伊賀で生まれました。すばらしいアイデアで日本や世界で有名になりました。この絵は表を上にして、小さな石を置き、絵具をゆっくりと流して作りました。



藤島武二(1867-1943)

《大王岬に打ち寄せる怒濤》1932年

藤島武二是三重県で先生だったことがあります。ヨーロッパの絵をよく勉強し、うつくしい色で誰にもできない絵を描いた有名な人です。この絵は、三重県の南の海を描いています。



柳原義達(1910-2004) 《風の中の鳥》1982年

柳原義達は43歳のときに、フランスへ行きました。もう一度彫刻を深く勉強するためです。そこに4年間いました。パリではジャコメッティなどの彫刻家と友達となりました。鳥をつくり始めたのは、1966年からです。強い風の中にいるこの鳥は、この彫刻家の気持ちを伝えています。